

kkj

令和7年度  
事業活動報告書



一般社団法人 環境共生まちづくり協会

令和8年3月



## 目次

令和7年度事業活動概要	1
1. 推進活動	4
1-1 環境共生団地・まちづくり事例の分析・整理	
1-2 環境共生住宅事例データベースの拡充	
1-3 「環境共生住宅・まちづくりの新たな魅力を考える勉強会」の開催	
1-4 「(仮称) 環境共生住宅・まちづくり推奨事例シート」の作成	
2. 調査研究活動	8
2-1 環境共生住宅推奨部品を組み込んだ「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の検討及び作成	
2-2 環境共生住宅推奨部品データベースの運営・管理	
3. 広報活動	10
3-1 ホームページの運用	
3-2 会員へのサービス提供	
3-3 会員拡大や協会の認知度向上等に向けた広報活動	
4. 普及展開活動	18

## 令和7年度事業活動概要

令和7年度事業計画に基づき、次の事業の取り組みを推進・実施した。

### 1. 推進活動

#### (1) 環境共生まちづくり事例の分析・整理

環境共生住宅の一層の普及促進を目的とし、「環境共生住宅 早わかり設計ガイド/戸建住宅編・集合住宅編」で扱っていない『環境共生まちづくり・団地』について、令和6年度に引き続き現地視察&ヒアリング調査を継続して実施した。

また、これまで行った現地調査で得られた知見を総合的に整理分析し、様々な機会における情報発信のためのコンテンツ充実化に努めた。具体的には、令和6年度までに調査を行った10事例と同様に、令和7年度調査した1事例についても調査内容を「事例シート」として取りまとめた。

#### (2) 環境共生住宅事例データベースの拡充

令和6年度に引き続いて、環境共生住宅への理解・普及を目的に、環境共生住宅・まちづくりの事例データベースの拡充を継続的に行った。掲載要件に基づき、会員企業等が取り組む新築及び改修事例を収集し、データベースに追加しホームページを通じて情報発信した。

令和7年度は、会員企業から情報提供された2事例について、kkjサイトへ情報を掲載した。

#### (3) 「環境共生住宅・まちづくりの新たな魅力を考える勉強会」の開催

住宅・まちづくりに対するニーズや価値観などが多様化している今日的状況を背景に、「環境共生住宅・まちづくり」の魅力をさらに高めていくための新たな視点を探ることを目的に、令和6年度に引き続いて「環境共生住宅・まちづくりの新たな魅力を考える勉強会」を令和7年度も計2回開催した。

具体的には、令和7年度第1回として×「団地再生」をテーマにして実施し、第2回として×「生物多様性・認証等」をテーマに勉強会を開催した。

#### (4) 「(仮称) 環境共生住宅・まちづくり推奨事例シート」の作成

環境共生住宅・まちづくりへの理解・普及を目的に、「環境共生住宅事例データベース」を基に、「(仮称)環境共生住宅・まちづくり推奨事例シート(案)」を作成し、今後の展開方法並びに有効活用方策を検討した。

令和7年度は、「地域会員」に対し「環境共生住宅・まちづくり推奨事例シート」作成のための情報募集を開始した。

## 2. 調査研究活動

### (1) 環境共生住宅推奨部品を組んだ「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の検討及び作成

「お勧め建材ガイド」及び「お勧め設備ガイド」の3地域編の公開データ、4地域編の原稿を作成した。

3地域編は令和8年(2026年)3月31日に建材ガイドと設備ガイドをセットで公開した。

「お勧め建材ガイド」の3地域編は寒冷地プラン、4地域編は温暖地プランで検討を実施し、いずれもレベル1・レベル2は充填断熱工法(繊維系断熱材)、外張断熱工法(発泡プラスチック系断熱材)、レベル3については、付加断熱工法(繊維系断熱材と発泡プラスチック系断熱材の組合せ)とした。

「お勧め設備ガイド」は3地域、4地域いずれも熱源機として石油潜熱回収型熱源機を、暖房としてパネルラジエーターを追加し組合せ、一次エネルギー消費量の計算は1地域当たり57通りを実施した。

### (2) 環境共生住宅推奨部品データベースの運営・管理

推奨部品の登録及び利用の拡大を目指し、推奨基準項目「XI レジリエンスの向上」の浸水に対応する部品について、該当する既存及び新規部品分類について検討を開始した。

また、現在の住宅用の部品だけではなく、住宅以外の用途でも使用される部品について検討を行った。

## 3. 広報活動

### (1) 環境と共生する家づくりに関する情報発信

#### ① ホームページの運用

kkj サイトへのアクセス数は、ページビュー数、訪問数共に減少したが、一般事業については令和6年度からの減少はなかった。

エンドユーザーに向けて、環境共生住宅の良さやそ

こでの暮らし方についての情報発信を引き続き実施した。

環境と共生する暮らし方教室については、川崎市立川崎小学校の寺子屋と学童の子どもたちに向け教室を開催するにあたり、kkjのWEBサイトや出版物を元に「涼しく過ごす夏の工夫」を紹介するパワーポイントを取りまとめ、新たな広報用ツールを作成した。

#### ② 居住者インタビューの実施

道路建設計画により2つに分かれた所有地に賃貸住宅とコミュニティハウスを建設した「三年鳴かず飛ばず」プロジェクト(東京都世田谷区)について、地主兼事業者からお話を伺った。自身の実家のかつての姿を継承し、人々が集う場を提供しながら、営みを含む大蔵ならではの風景を次世代に残すことを目指しており、地域社会の持続可能性やコミュニティの活性化に寄与する意義深い事例を取材することができた。(インタビューは令和8年度発行の機関誌「SYMBIOTIC HOUSING」に掲載予定。)

#### (2) 会員へのサービス提供

##### ① 見学会の開催

第1回では「守山市新庁舎『つなぐ、守の舎』」を見学。街並みと調和し地域特性を活かしたパッシブデザインや多様な省CO<sub>2</sub>技術によってZEB Readyを達成するとともに、あらゆる災害に対する防災中枢拠点として庁舎機能を維持し地域の防災力向上に寄与することを目指した市庁舎を見学することができた。第2回では「早稲田アリーナ(早稲田大学37号館)」を見学。建物の大半を地下に埋設し地表をパブリックスペースとして開放したランドスケープ計画をはじめ、建築計画、設備計画の緻密な融合により、様々な環境改善に寄与する持続性に優れた複合施設を見学することができた。計2回の見学会で延べ52名が参加した。

##### ② 交流セミナーの開催

第1回では安成哲三氏(京都気候変動適応センターセンター長)をお招きし、近年激変している気候や環境に対し、モンスーンアジアの気候風土や社会的特徴をふまえたうえで地域社会がどう立ち向かうべきか、地球と地域の未来可能な社会の重要性や可能性について学ぶことができた。第2回では小泉秀樹氏(東京大学まちづくり研究室教授 東京大学まちづくり大学院

コース長)による講義を通じて、海外の都市における気候変動に対する都市計画・まちづくり等の具体的な事例紹介を通じてこれらが日本に示唆している点について学ぶことができた。計2回のセミナーで延べ73名が参加した。

### ③技術研修交流会の開催

技術研修交流会は、異業種が集まる当協会の特徴を活かし、会員相互の環境共生関連事業における業容拡大や新たな事業機会等に寄与する機会の創出を目的として開催している。令和7年度は、河村電器産業(株)が有する製品について最新の製造技術や主に地震対策を主眼とする住宅用商品をご紹介いただくとともに、ZEB取得を達成した工場棟・厚生棟・ラボ棟を見学することができた。

### ④機関誌の発行

見学会や交流セミナーの内容を機関誌「SYMBIOTIC HOUSING」としてまとめて発行することで、当日、参加できなかった会員にも実施内容を届けることができた。

### ⑤kkjの活動情報発信

kkjサイトの会員専用ページでは、最新情報への更新・追加に努め、会員向けの情報の充実化を進めた。合わせて会員向けメールマガジンの各号のテーマについて広報部会内で検討を行い、充実した内容で定期的に発行した。

## (3)会員拡大や協会の認知度向上等に向けた広報活動

### ①kkjサイトの解析結果を活かした広報・普及活動の展開

kkjサイトを中心に、協会の活動や環境共生に関する最新情報を積極的に発信した。令和7年度は、「kkj活動の簡易な報告ページ」を作成し、今まで会員専用ページでのみ公開していた「見学会」「交流セミナー」を始めとする会員向けの活動を会員外の訪問者にも伝えられるような改編を行った。

「ESH パッシブデザインツール」については、公開中のページのアクセス解析を行い、ページ構成の修正と合わせて、掲載情報の更新を行った。合わせてESHパッシブデザインツールの利用者アンケートを実施し、現在の利用状況を把握。アンケートの回答結果から対象の属性や競合するツールについて解析し、今後の広報活動の指針にまで繋げることができた。

### ②地域からの便りの連載

連載を休止していた「地域からの便り」の連載方法を含めてコンテンツの在り方を見直し、kkjサイトの活性化につながるような運営方法の検討を行った。さらに広報部会委員及び運営委員長からの紹介により、新たに3名の執筆者を見つけることができた。令和7年度内に2名からの寄稿を公開した。

## 4. 普及展開活動

令和6年度の団体名称の変更を受け、まちづくりWGを立ち上げ、環境共生まちづくりに関する具体的な検討を開始し、方向性を打ち出した。また、kkjホームページにおいて、住宅中心の内容からまちづくりに関する内容の充実化及び内容のわかりやすさを目的として必要な修正を行った。

さらに、住宅・建築業界だけではなく、異なる業界の媒体を通じて、環境共生やパッシブデザインの考え方や手法、協会の取り組み等について広く情報発信することができた。

# 1. 推進活動

## 1-1 環境共生まちづくり事例の分析・整理

### (1) 概要

環境共生住宅の一層の普及促進を目的とし、「環境共生住宅 早わかり設計ガイド/戸建住宅編・集合住宅編」で取扱いのない『環境共生まちづくり・団地』について、令和6年度に引き続き現地視察&ヒアリング調査を継続して実施した。これにより現地調査は計11事例となり、現地調査並びにヒアリングを通じなければ得られない貴重な情報(特に竣工後現在までの実態など)が得られた。

また、これまで行った現地調査で得られた知見を総合的に整理分析し、様々な機会における情報発信のためのコンテンツ充実化に努めた。

### (2) 実施内容

- ①令和7年度は、「平塚ガーデンホームズ」の1事例を調査した。
- ②この事例調査内容を「事例シート」として取りまとめた(図1-1)。
- ③この「事例シート」を、令和3年度に立ち上げたkkjサイト内のコンテンツ「環境共生まちづくり事例データベース」内にアップした。
- ④令和8年度も引き続き現地調査並びにヒアリング調査を継続して行く予定である。調査内容を「事例シート」として取りまとめるとともに、これまで行った現地調査&ヒアリング調査から得られた知見を整理分析し、部会メンバーはもちろんkkj会員に対し広く情報共有していく予定である。

#### 《事例シート：平塚ガーデンホームズ》

本資料は、令和7年11月7日(金)に実施された「第11回事例視察・ヒアリング調査(場所：平塚ガーデンホームズ)における事例視察&ヒアリング調査の概要を整理したものです。なお本調査は、(一社)団地再生支援協会とのコラボ企画で実施したものです。

第一ホテルエンタープライズにより企画・分譲された郊外型・中層分譲住宅団地で、「25年以上存在価値を發揮し、地域社会に貢献してきた建築」として2020年に「JIA 25年賞」を受賞しています。計画段階より、将来の緑に囲まれた潤いのある環境形成を企画し、現在も適切に環境管理され、築40年を過ぎた今日でも良好な居住環境並びに資産価値が形成されている秀作プロジェクトです。

■実施日：令和7年11月7日(金)

■ヒアリング対象者：

○案内役(入居者)：近藤裕幸氏(株南條設計室 副所長)

○調査コーディネーター：(一社)団地再生支援協会

奥茂謙仁氏、金丸典弘氏、花牟禮幸隆氏



図1-1 令和7年度第1回現地視察&ヒアリング調査の概要

## 1-2 環境共生住宅事例データベースの拡充

### (1) 概要

令和6年度に引き続いて、環境共生住宅への理解・普及を目的に、環境共生住宅事例データベースの拡充を図った。掲載要件に基づき、会員企業等が取り組む新築及び改修事例を収集し、データベースに追加しホームページを通じて情報発信した。

会員企業の協力及びkkj活動を通じて、地域性に配慮した特徴的かつ先導的な新築事例を収集し、情報発信することができた。

### (2) 実施内容

①新築及び改修事例の収集、データベースへの追加  
会員企業から情報提供された2事例について、kkjサイトへ情報を掲載した。(図1-2)

#### ● 旧用賀名主邸



世田谷区に現存する築約250年の江戸の名主邸を“残しながら”の耐震改修工事。

一般的な耐震工事と比べ解体する箇所を極力減らし、建物の伝統的な意匠を最大限保存したまま耐震性能を向上させ、安全性の高い物件に再生した。

●環境共生要素技術：[省資源][親和性][健康快適]

●所在地：東京都世田谷区

●竣工年：2025年

●設計・施工：三井ホーム株式会社

●構造・規模：木造 平屋

延床面積約220㎡

#### ● CENTURY-NEUTRAL MODEL-



デザイン性や快適性、環境への配慮をニュートラル（中立的）なアプローチにより追及することで、住まい手やまちと調和できる住まいを提案。

LCCM住宅の基準を満たす高い環境性能を持たせつつ、居心地や愛着といった、住まいの本質である「永く住まう」ことを大切に設計した住宅。

●環境共生要素技術：[省エネ][省資源][親和性][健康快適]

●所在地：東京都世田谷区

●竣工年：2022年 竣工

2025年 バウハウスデザイン思想を受け継ぐ住宅として再定義

●設計・施工：ミサワホーム株式会社

●構造・規模：木質パネル接着工法、地上2階建

延床面積：213.05㎡

図1-2 kkjサイトに掲載した事例データベース（令和7年度新規）

### 1-3 「環境共生住宅・まちづくりの新たな魅力を考える勉強会」の開催

#### (1) 概要

令和6年度に引き続いて、令和7年度も計2回の勉強会を開催した。

#### (2) 実施内容

- ① 令和7年度第1回として、「環境共生住宅・まちづくり」×「団地再生」というテーマで勉強会を開催した。開催概要は次の通り。
  - ・テーマ：「環境共生住宅・まちづくり」  
×「団地再生」
  - ・プレゼンター：(一社) 団地再生支援協会  
奥茂謙仁氏、金丸典弘氏、花牟禮幸隆氏
  - ・主催：(一社) 環境共生まちづくり協会
  - ・開催日時：令和7年10月20日(月)  
15:00～17:00
  - ・開催場所：TKP 飯田橋ビジネスセンター
  - ・対象：環境共生まちづくり協会会員
  - ・参加者：現地参加19名、WEB参加13名



図1-3 令和7年度第1回勉強会のようす

## 団地再生支援協会 が捉える3つの再生…

- ・ 大規模修繕や性能向上改修、住戸リノベーション等による住環境（建物、施設、屋外）の向上
- ・ 共助の導入や新住民への入れ替わりを促し、多様な入居者の暮らしを支えるコミュニティの更新
- ・ 合理的な管理・運営方式への転換、経営的視点による運営等によるハウジング経営の向上
- ・ これらを“住環境の再生”、“コミュニティの再生”、“ハウジング経営の再生”3つの再生と捉える

### 高経年団地でもリノベーションでイメージが一変…

図1-4 令和7年度第1勉強会 プレゼンテーション資料

② 令和7年度第2回として、「環境共生住宅・まちづくり」×「生物多様性・認証等」というテーマで勉強会を開催した。開催概要は次の通り。

- ・テーマ：「環境共生住宅・まちづくり」  
×「生物多様性・認証等」
- ・プレゼンター：(一社)いきもの共生事業推進協議会 (ABINC)  
安齋 健雄氏 (事務局長)
- ・主催：(一社)環境共生まちづくり協会
- ・開催日時：令和8年2月6日 (金)  
15:00~17:00
- ・開催場所：「リロの会議室飯田橋」会議室D
- ・対象：環境共生まちづくり協会会員
- ・参加者：現地参加12名、WEB参加11名

③ 令和7年度第1回並びに第2回の勉強会資料等を協会ホームページにアップし、情報発信中である (会員限定で発信)。



図1-5 令和7年度第2回勉強会のようす

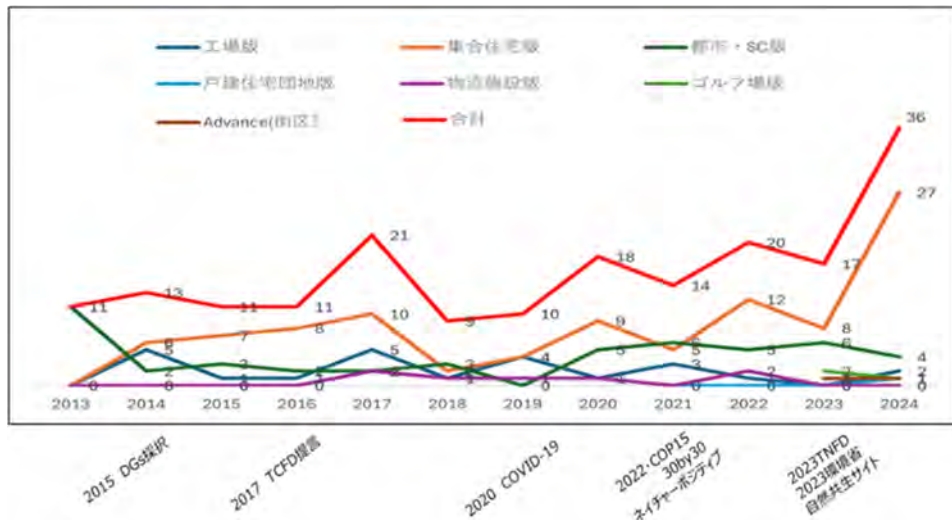
### 1-4 「(仮称) 環境共生住宅・まちづくり推奨事例シート」の作成

#### (1) 概要

環境共生住宅・まちづくりへの理解・普及を目的に、「(仮称) 環境共生住宅・まちづくり推奨事例シート (案)」を作成し、今後の展開方法並びに有効活用方を検討した。

#### (2) 実施内容

① 地域会員に対し「環境共生住宅・まちづくり推奨事例シート」作成のための情報募集を開始した。



	シリーズ	認証開始	対象	件数	認定件数は計 <b>200</b> 件 (2025年8月末時点)
個別施設	都市・SC版	2013~	オフィスビル、商業施設など	49	
	工場版	2014~	工場	24	
	集合住宅版	2014~	マンション、集合住宅	98	
	戸建住宅団地版	2017~	戸建て住宅団地 (街区)	6	
	物流倉庫版	2017~	物流倉庫など	7	
街区	ABINC ADVANCE	2019~	複数以上の街区	4	
自然資本	ゴルフ場版	2023~	ゴルフ場	3	
	企業林版	2024~	森林 (社有林など)	-	
合計				191	

図1-6 令和7年度第2回勉強会 プレゼンテーション資料

## 2. 調査研究活動

### 2-1 環境共生住宅推奨部品を組み込んだ「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の検討及び作成

#### (1) 概要

「お勧め建材ガイド」及び「お勧め設備ガイド」の3地域編の公開データ、4地域編の原稿を作成した。3地域編は令和8年(2026年)3月31日に建材ガイドと設備ガイドをセットで公開した。

#### (2) 実施内容

##### ①「お勧め建材ガイド」仕様の決定

- レベル設定は、1地域・2地域と同様に、レベル1は省エネ基準で等級4、レベル2は誘導基準で等級5、レベル3は等級6とした。
- 3地域は寒冷地プラン、4地域は温暖地プランで検討を実施し、いずれもレベル1・レベル2は充填断熱工法(繊維系断熱材)、外張断熱工法(発泡プラスチック系断熱材)、レベル3については、付加断熱工法(繊維系断熱材と発泡プラスチック系断熱材の組合せ)とした。

##### ②「お勧め設備ガイド」設備機器組合せの検討

- 熱源機として石油潜熱回収型熱源機を、暖房としてパネルラジエーターを追加し組合せた。
- 3地域は設備グレードを外皮性能に関わらず1種類とした。4地域は設備グレードを2種類とした。外皮性能がレベル1・レベル2では換気は壁付け第三种換気、床暖房敷設面積50%、エコキュートJIS効率3.5とし、レベル3ではダクト式第一種熱交換換気、床暖房敷設面積70%、エコキュートJIS効率3.7とした。

表 2-1 お勧めガイド発行状況 (2025年3月現在)

地域	お勧め建材ガイド		お勧め設備ガイド	
	発行年	発行状況	発行年	発行状況
1	2025年	公開済み	2025年	公開済み
2	2025年	公開済み	2025年	公開済み
3	2026年	公開済み	2026年	公開済み
4	2026年	公開予定	2026年	公開予定
5	2023年	公開済み	2023年	公開済み
6	2023年	公開済み	2023年	公開済み
7	2023年	公開済み	2023年	公開済み

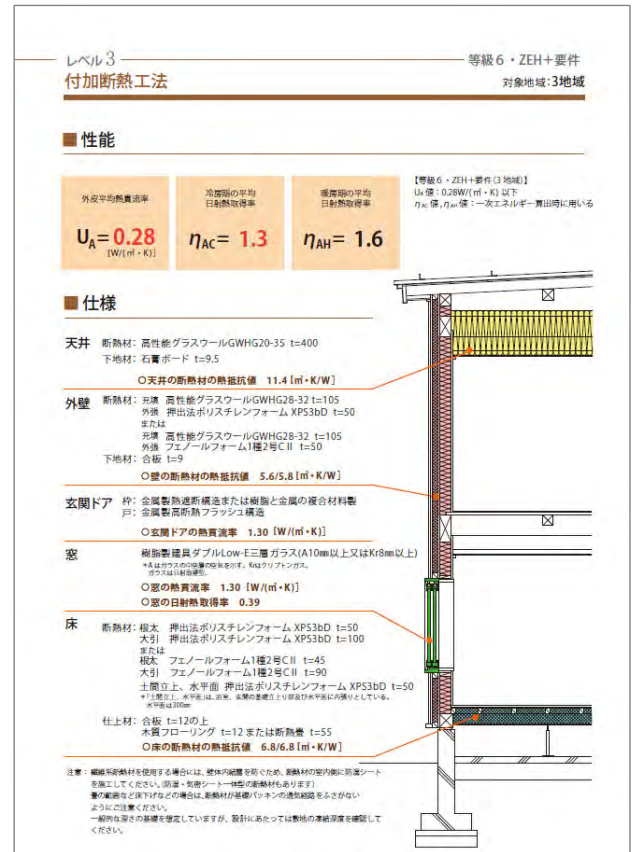


図 2-1 「お勧め建材ガイド」掲載ページ例

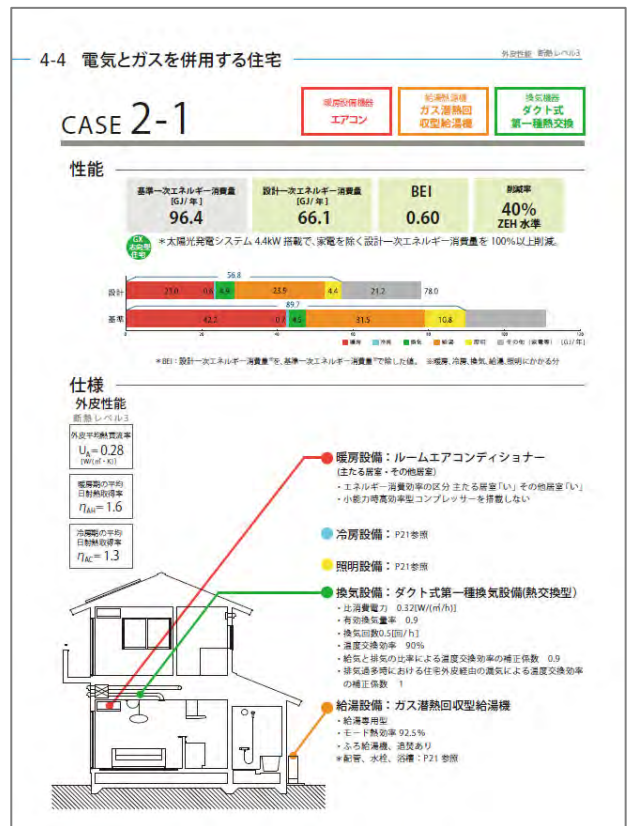


図 2-2 「お勧め設備ガイド」掲載ページ例

## 2-2 環境共生住宅推奨部品データベースの運営・管理

### (1) 概要

推奨部品の登録及び利用の拡大を目指し、推奨基準項目「XI レジリエンスの向上」の浸水に対応する部品について、該当する既存及び新規部品分類について検討を開始した。

また、現在の住宅用の部品だけではなく、住宅以外の用途でも使用される部品について検討を行った。

### (2) 実施内容

#### ① 「XI レジリエンスの向上」の浸水対応に該当する部品及び新規部品分類の検討

- 「XI レジリエンスの向上」の浸水対応に該当する部品として、新たに「開口部材 (窓)」、「開口部材 (玄関ドア)」を対象として推奨基準等の検討を開始した。
- 新規部品として、浸水対応の「土台水切り」についても部品分類や推奨基準等についての検討を開始した。

#### ② 住宅以外の用途でも使用される部品の検討

- 現在の環境共生住宅推奨部品データベースの枠組みはそのままとし、住宅以外の用途でも使用される部品について、新たな推奨部品の枠組みの検討を行った。
- 住宅以外の用途では、1つの部品 (設備) で完結するものより、複数の設備や取組を合わせたものが多く見られ、現在の環境共生住宅推奨部品と同じような形で各部品別の細かい推奨基準を設けていくことは難しいため、現状とは異なる形で部品を紹介していけるような形を検討していく事とした。

#### ③ 「推奨部品紹介シート」の掲載

- 令和6年度から開始した、環境共生住宅推奨部品に関する新たな会員サービスの一環として、環境共生住宅推奨部品をエンドユーザーに向けて積極的にPRできる「推奨部品紹介シート」を作成した。
- 現時点 (令和8年 (2026年) 3月末) で、5分類29製品の「推奨部品紹介シート」をホームページに掲載している。

### 「推奨部品紹介シート」掲載箇所

種類	部品名	適用対象	規格取得の有無	部品紹介	メーカー名
ガラスウール	アクリアウール	新 U	あり	PDF	旭ファイバーグラス株式会社
	アクリアアジオス	新 U	あり	PDF	旭ファイバーグラス株式会社

図2-3 推奨部品紹介シートの掲載状況 (一部抜粋)



図2-4 掲載された推奨部品紹介シートの↑例

#### ④ 既存部品分類製品の追加掲載

- 既存推奨部品の登録更新作業を実施した。
- 既存部品分類について11製品を追加し公開した。
- 推奨部品登録製品数は29分類158製品※1となった。

※1: 重複登録は、「内装仕上げ材 (壁材・天井材)」と「内装仕上げ材 (調湿・脱臭建材)」: 1件。

表2-2 令和7年度 (2025年度) に新たに追加した製品

分類	種類	製品名	メーカー名
開口部材 (窓)	アルミ樹脂複合	STINA	三協立山(株) 三協アルミ社
	アルミ木複合	高性能窓 TW コンセプト	株式会社LIXIL
	樹脂製	高性能窓 TW WOOD	
開口部材 (玄関ドア)	アルミ形材断熱構造/その他 (アルミ形材断熱構造断熱パネル構造)	リパルス 玄関ドア	三協立山(株) 三協アルミ社
給湯・給湯暖房機器	エコジョーズ (給湯)	GT-C(P/V) 72-1シリーズ (但し、屋内壁掛強制給排気形は除く)	株式会社ノーリツ
	エコジョーズ (給湯+暖房)	GTH-C (P/V) 70シリーズ (但し、屋内壁掛強制給排気形は除く)	
	エコジョーズ (給湯+暖房)	GTH-C (P/V) 2471シリーズ (但し、屋内壁掛強制給排気形は除く)	
	ハイブリッド給湯機 (給湯+暖房)	HPHB R290シリーズ	
便器・便座	超節水型便器 / 温水洗浄便座	Jフィット	株式会社LIXIL
雨水利用システム	雨水利用システム	トイレ洗浄用、散水用雨水タンク ビュアエデン	デンカアステック(株)

### 3. 広報活動

#### 3-1 ホームページの運用

##### (1)概要

kkj は平成 10 年度（1998 年度）より、ホームページを通じて、環境共生住宅についての基礎的な情報から、暮らし方や住み心地、関連する最新動向等を常に発信し続けており、kkj の普及啓発活動における効果的なツールとして機能している。令和 7 年度は、「環境共生まちづくり」というキーワードをホームページ内に加え、「環境共生住宅」等のタイトルを「環境共生住宅・まちづくり」等に修正した。



また「ESH パッシブデザインツール」のページの改訂や利用者アンケートを行い、ホームページ以外の広報活動の展開方法についての検討も行った。

##### (2)ホームページのアクセス結果

令和 7 年度のホームページのアクセス概要を以下に示す。

表 3-1 アクセス総数の前年度比較

PV 数 <sup>※1</sup>	令和 7 年度	199,602	国庫補助事業	60,873	
				一般事業	118,084
			TOP ページ	20,645	
訪問数 <sup>※2</sup>	令和 7 年度	77,010	国庫補助事業	162,220	
				一般事業	114,107
				TOP ページ	62,838
	令和 6 年度	339,165			
	令和 6 年度	105,164			

表 3-2 アクセス数月平均値の前年度比較

	PV 数 <sup>※1</sup>	訪問数 <sup>※2</sup>	1人あたりの平均PV
令和7年度	17,052	6,404	2.70
令和6年度	28,264	9,032	3.08

※1. PV（ページビュー）数：ホームページ全体の閲覧ページ数  
 ※2. 訪問数：同じIPアドレスの訪問延べ数

アクセス総数の前年度比較を見ると、令和 6 年度よりもページビュー数、訪問数共に大幅に減少した。ページビュー数の内訳を見ると、国庫補助事業でおよそ 10 万 PV、TOP ページは 4 万 PV 前年度から減少しており、国庫補助事業終了から 1 年経過した後に該当サイトを閉じたことが大きく関係していると推察できる。一般事業は、昨年度に比べてほぼ同程度のページビュー数となっている（表 3-1 参照）。

アクセス数月平均値の前年度比較でも、月当たりのページビュー数、訪問数共に減少した（表 3-2 参照）。

一般事業の上位コンテンツ 20 位（表 3-3 参照）の前年度からの大きな変化としては、くまの家ものがたりへのアクセスが伸びたことが挙げられる。その他、国庫補助事業成果報告書や kkj からのお知らせとして、見学会やセミナー等会員向けの開催ではあるが、その内容を会員外にも伝えられるように簡易的な報告レポートを掲載する取り組みを始めたことで、ページビュー数が上がっていることから、引き続き継続して情報発信に努めたい。

表 3-3 一般事業上位 20 位コンテンツの比較

順位	令和 6 年度 (2024. 4. 1-2025. 3. 31)		令和 7 年度 (2025. 4. 1-2026. 3. 31)	
	コンテタイトル	PV/日	コンテンツタイトル	PV/日
1	TOP	169	くまの家ものがたり	94
2	地域からの便り	69	TOP	57
3	kkj 特集	59	kkj 特集	47
4	環境共生住宅とは	50	環境共生住宅・まちづくりとは※	35
5	環境共生住宅事例データベース	19	国庫補助事業成果報告	20
6	環境共生住宅推奨部品データベース	14	環境共生住宅・まちづくりの事例※	20
7	国庫補助事業成果報告	14	地域からの便り	16
8	ESH パッシブデザインツール	13	推奨部品 DB	14
9	協会の紹介	11	ESH パッシブデザインツール	11
10	ゼロからはじめる環境共生住宅	8	協会の紹介	9
11	kkj の 5 カ条シリーズ	5	kkj の出版物	5
12	kkj の出版物	5	kkj の 5 カ条シリーズ	5
13	kkj★KIDS	4	kkj からのお知らせ (NEWS)	4
14	くまの家ものがたり	2	kkj★KIDS	3
15	会員交流セミナー	2	ゼロからはじめる環境共生住宅	2
16	環境共生まちづくり事例データベース	2	お知らせ (更新情報)	2
17	会員専用ページ	2	環境共生住宅・まちづくりとは INDEX※	2
18	会員の環境への取り組み	2	会員の環境への取り組み	2
19	環境共生住宅とは INDEX	1	会員セミナー	2
20	くらしかた・すまいかた	1	環境共生まちづくりの特徴一覧※	2

PV/日：1日あたりのページビュー数（ページが閲覧された回数）  
 赤字：前年度と比較して1日あたりのページビュー数が増えた、もしくは順位が上がったコンテンツ

※令和 7 年度に名称変更したコンテンツ

環境共生住宅とは ⇒ 環境共生住宅・まちづくりとは  
 環境共生まちづくり事例 DB⇒環境共生まちづくりの特徴一覧  
 環境共生住宅事例 DB⇒環境共生住宅・まちづくりの事例

## 3-2 会員へのサービス提供

### 3-2-1 見学会の開催概要

#### (1)第1回見学会

■見学先：守山市新庁舎『つなぐ、守の舎』

■日 時：令和7年7月4日（金）14：00～15：45

■内 容：

○守山市役所3階会議室にて説明

○市役所内見学

○質疑応答

■参加者数：20名

■オプション見学（参加希望者のみ）

見学先：大阪・関西万博 EXPO 2025

大屋根リング、日本ガス協会パビリオン/おばけワンダーランド、電気事業連合会パビリオン/電力館を参加者全員で見学

日 時：令和7年7月5日（土）10：00～15：30

参加者数：12名

■見学会の様子

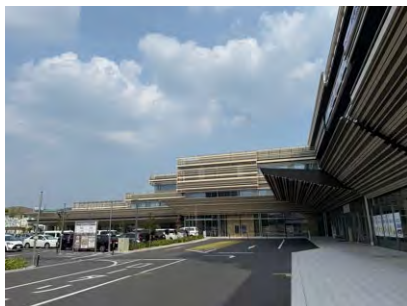
#### ■主な内容

□守山市新庁舎『つなぐ、守の舎』

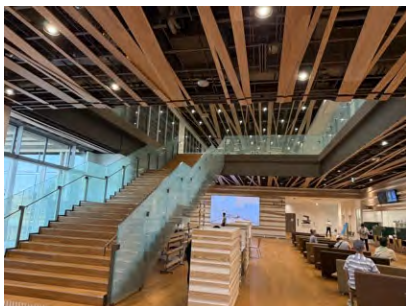
①地域特性を生かした街並みと調和したパッシブデザイン、②省CO<sub>2</sub>化と防災力向上および感染症リスク軽減の実現、③先導的で普及性の高い技術の導入と運用の最適化といった様々な技術による省CO<sub>2</sub>を実現し、さらに健康・快適性の向上、非常時のエネルギー自立と省CO<sub>2</sub>の実現の両立、地方都市等での先導的な省CO<sub>2</sub>技術の波及、普及につながる取り組み等によって、あらゆる災害に対しても全ての市民の安全を守る防災中枢拠点として、庁舎機能を維持し地域の防災力向上に寄与することを目指した市庁舎を見学することができた。

□大阪・関西万博 EXPO 2025

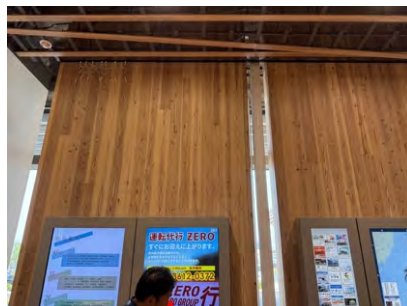
大屋根リングの他、会員企業様のご協力により、日本ガス協会パビリオン/おばけワンダーランド、電気事業連合会パビリオン/電力館をスムーズに見学できた。



市庁舎全景



エントランスホール



CLT 耐力壁



掲示スペース



議場



屋上設備スペース



大屋根リング



おばけワンダーランド



電力館

## (2)第2回見学会

■見学先：早稲田大学 37号館 早稲田アリーナ

■日時：令和7年12月5日（金）13:00～15:00

■内容：

- （株）山下設計 ジェネラルアーキテクト 水越英一郎氏による施設の概要及び性能検証等の説明

○施設見学

■参加者数：32名

■主な内容

□早稲田アリーナ

6,000人収容のアリーナを地下に埋設し、地表に「戸山の丘」という緑化されたパブリックスペースを設け、大学と地域を繋ぎ、新たな交流や活動を生み出すきっかけをつくとともに、人と生物のための多様性に富んだ環境整備や、ZEB Readyの達成等、大学キャンパスだけではなく、地域環境や地球環境の改善を目指した多機能型スポーツアリーナを中心とする複合施設を

■見学会の様子

見学した。

□水越氏による説明

建て替えるにあたり大学としてのシンボル性が求められた。地域社会との連携強化による持続可能社会の実現、優れた研究成果や人材を排出するための教育イノベーション、省エネの推進、環境負荷低減、生物資源・自然環境の保全等全ての人々が快適に使える施設として、これからの地域社会における大学キャンパスの役割について原点から考えた。周辺には武蔵野地域と東京都心を繋ぐエコロジカルネットワークの起点になっている神田川や椿山荘がある。ここに緑を作ることによって生態系が繋がるのではないかと考え、できるだけ広域的に捉えることで周辺環境や地球環境も良くなるような建物となることを目指した。メインアリーナでの使用電力量より太陽光発電量の方が大きく、年間を通してゼロエネルギーのアリーナとなっている。十分な自然光が入る設計とし、機械設備に頼らなくても、快適な環境を作る建築を考えた。



南東側外観



東側外観



屋上緑地 スロープ



屋上緑地 広場



屋上緑地 植栽計画



高層棟 ピロティ



アリーナ 内観



アリーナ 内観



水越氏による説明

### 3-2-2 交流セミナーの開催概要

#### (1)第1回交流セミナー

■日 時：令和7年8月25日（金）16：00～17：30

■場 所：オンライン開催（Zoom 利用）

■テーマ：地球とモンスーンアジアの未来可能性

■講 師：京都気候変動適応センター センター長  
総合地球環境学研究所 顧問・名誉教授  
安成 哲三氏

■参加者数：38名

■主な内容：

#### □アジアモンスーンと日本の気候

日本の気候は、アジアモンスーンという大きな気候の影響下にある。アジアモンスーンは、東アジア、東南アジア、南アジアという地域の気候だけではなく、グローバルな視点で見た地球の気候にも大きな影響がある。その中で、チベット高原とヒマラヤ山脈という標高5000mの大きな高原があり、これが大きな役割を果たしてアジアモンスーンが成り立っている。

#### □モンスーンアジアの自然と風土

モンスーン気候の影響を受けるエリアをモンスーンアジアと呼んでいるが、このエリアには独特の風土がある。人口が多く世界人口の約60%が集中している。

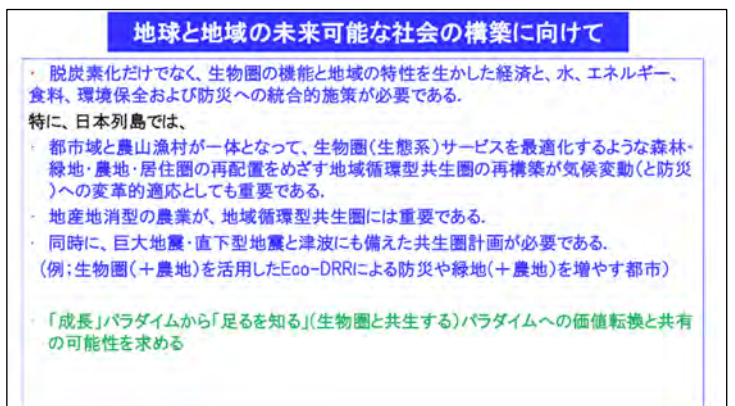
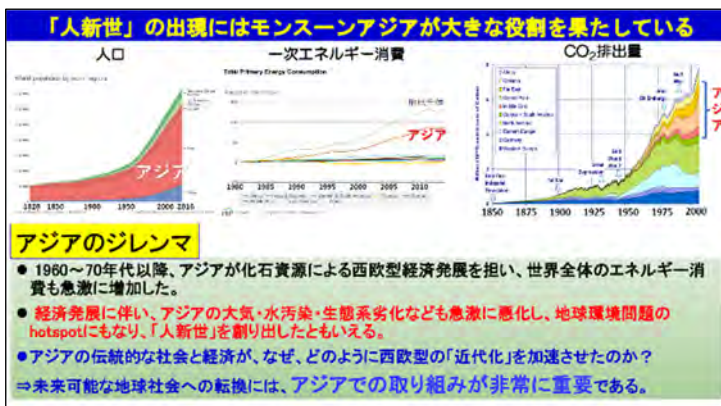
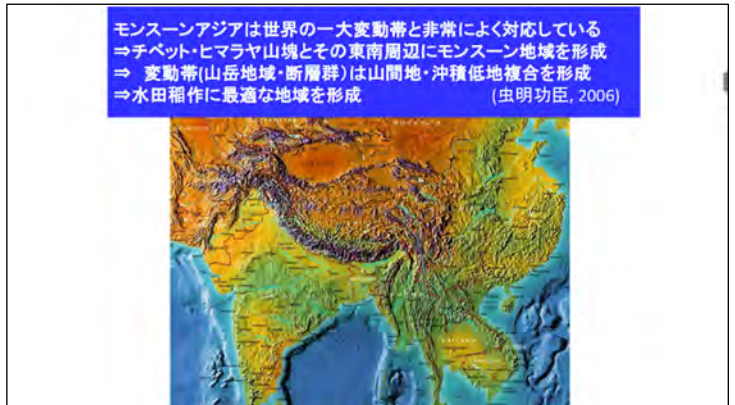
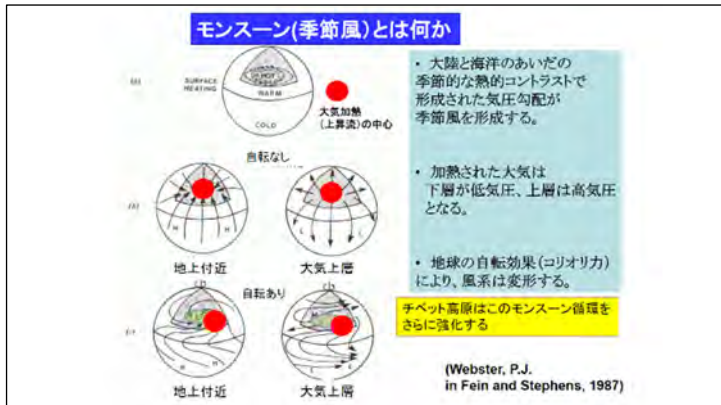
ヒマラヤ山脈が示すように世界の一大地殻変動帯を形成し、それによって山間地・沖積低地複合を形成するが、これは水田稲作に最適な地域を形成する。そしてそのことが人口集中の要因になっている。

#### □モンスーンアジアの経済発展と地球環境問題

モンスーンアジア地域は、19世紀後半の西欧での産業革命以降から第二次大戦までの時期を除き、16世紀以降世界の産業活動の中心であり続けている。経済発展に伴い、アジアの大気・水汚染、生態系劣化等も急激に悪化し、地球環境問題のホットスポットにもなり「人新世」を創り出したともいえる。未来可能な地球社会への転換には、アジアでの取り組みが非常に重要である。

#### □激変する地球環境に地域社会はどう立ち向かうべきか

モンスーンアジア全体での未来へ向けた持続可能な経済・社会雄への転換を進める研究者、政策担当者及び企業・市民を含む国際的枠組みが緊急に必要。脱炭素化は重要な問題であるが、地球の自然（大気圏・水圏・地圏）をつなぐ炭素循環の中で大気中からのCO<sub>2</sub>を減らせるのは生物圏（陸上と海洋の生態系）だけであり、健全な生物圏の維持こそ最大の脱炭素である。



(2)第2 回交流セミナー

- 日 時：令和8年1月27日(火) 14:00~15:30
- 場 所：オンライン開催 (Zoom 利用)
- テーマ：気候変動と都市計画・まちづくり
- 講 師：東京大学まちづくり研究室教授 東京大学  
まちづくり大学院コース長 小泉秀樹氏
- 参加者数：35名
- 主な内容：

現在、世界の都市が直面している問題は、かつての問題とは様相が異なっており、その一つが気候変動にどう対応するかということである。IPCCの第7次報告書では、「都市(Cities)」が非常に重要であることが示され、気候変動問題に対処するためには、都市からのアプローチによって改革を行わなければ問題解決にはつながらないという問題意識が提示されている。

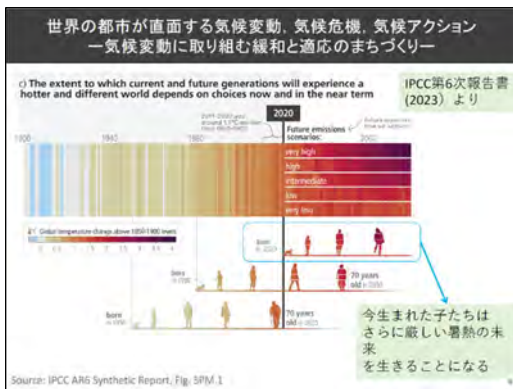
少子化・高齢化も世界の都市が直面している大きな問題である。いずれの国においても高齢化は進展しており、減少する国はないということがポイントである。同時代的な現象でありかつ不可避な問題であり、気候変動と同じような問題である。また都市に暮らすライフスタイルや都市で暮らすことによる価値観や環境条件、経済的制約等が組み合わさって少子化になってお

り、都市化のスピードと少子化・高齢化の進展は並行的な関係にあるといえ、これも都市の問題である。

こうした都市をとりまく様々な「新たな課題」に個別に取り組むのではなく、一つの都市として包括的に解決できるようなソリューションを考えることが新しい時代の都市計画、都市づくりに求められている。こうした動きに対応する取り組みは、日本より先行して欧米を中心に進められている。

その一つは2019年から始まっている欧州グリーンディールという大きな枠組みである。気候問題、サーキュラーエコノミー、食糧システム、生物多様性等様々な循環型で持続性の高い社会に向かうための取組みを包括的に行うことが示されている。

個別の取り組み例としてシアトル、アムステルダム、パリの取り組みを紹介する。シアトルでは群(県)による広域的な土地利用を規制しており自治体ごとの成長の割合が定められている。アムステルダムでは、ホールライフカーボンの観点を都市形成に反映するシステムを構築している。パリでは15分都市という考え方で都市づくりが進められており、生活に必要な職場や店等に15分でアクセスできることを中心的な都市づくりのコンセプトに据えられている。



カーボンニュートラル都市にむけた空間スケールごとの取り組み内容と関連主体の役割  
『カーボンニュートラルなまちづくり』2025 学芸出版社に掲載を一部改変

空間スケール	想定される主な取組内容	基礎自治体	広域自治体	国	市民	企業
国土・地方	カーボンオフセットの地域間やり取り 気候変動の観点を組み入れたマスタープラン作成と評価 気候変動の観点を組み入れたマスタープラン作成と評価	シアトルインセンティブプランニング	キング郡(シアトル都市圏) 開発権移転PG	ワシントン州(GMA)	モニタリング団体	民間デベロッパー
都市圏	気候変動の観点を組み入れたマスタープラン作成と評価	シアトルコンプラン作成と評価		ワシントン州(GMA, SEPA)	コミュニティ組織 専門家集 団の参加	BIDの参加
基礎自治体	単体(建築 施設)に関する排出削減や創エネ規定		東京都	国土 国土利用計画 国土形成計画 国土強靭化計画 国土形成計画 国土形成計画		企業 企業 企業



### 3-2-3 技術研修交流会の開催概要

■日 時：令和7年9月30日（火）14：00～16：45

■場 所：河村電器産業株式会社 郡山工場

■テーマ：河村電器産業の環境共生技術

■内 容：

○工場概要説明

○見学：板金行程・塗装工程

高圧受電設備組立・分電盤組立

工場事務所、ラボ棟、AQURIO（食堂）

住宅用商品説明・デモ機

○質疑応答

■参加者数：9名

■主な内容：

#### □郡山工場について

この工場は2024の去年の4月から稼働しており、弊社が初めてこの地に進出した工場で、ゼロから立ち上げをスタートしている。全く新しい考え方で製造ラ

インを作っている箇所もあり、設備も最新のものを可能な限り導入している。

#### □郡山工場の設備について

工場の真ん中が塗装部門になっており、天井が高くなっている。その横に太陽光パネルが敷き詰められており、1.5メガの発電ができる仕様になっている。

板金工程は暑い、汚いというイメージがあるが、若い方に向けてそういったイメージを払拭できるようにフル自動の生産体制に努めている。溶接や技能が必要な工程も全て自動化を目指している。

事務所はフリーアドレスを採用し、打合せ時は専用スペースで対応している。研究開発棟はアイデアが浮かんだときに、ペーパーレスでいつでも机や壁に直接書き込みができるように工夫している。会議室のある厚生棟は非常に緑豊かな環境で大変過ごしやすい空間になっている。緑の維持管理は大変だが、この環境を整備することが社員の働きやすさに繋がっている。



板金切断



塗装工程



配電盤組立



ラボ棟



AQ11URIO 外構



社員食堂



郡山工場の ZEB 概要説明及びデモ機実演体験



### 3-3 会員拡大や協会の認知度向上等に向けた 広報活動

#### (1) 協会活動の対外的な発信ページの作成

##### ①概要

kkj の会員向けに実施している「見学会」「交流セミナー」「環境共生住宅・まちづくりの新たな魅力を考える勉強会」「環境共生まちづくり 事例紹介+意見交換会」といった各種の勉強会は、開催終了後に開催概要と記録動画を会員専用ページにて会員限定で公開してきた。しかし会員以外の訪問者、例えば入会希望者であっても、入会前に活動の具体的な内容を伺い知ることができなかった。そこでkkj の活動内容をより具体的に対外的に発信できるよう、「kkj からのお知らせ」内に独立したページを都度作成し、TOP ページの「更新情報」からリンクを貼ることで、当協会の活発な取り組みを会員外の人にも伝わるようにした。



図 3-1 お知らせページの掲載例

#### ②お知らせページの基本構成

お知らせページの基本的な構成は、開催日時、会場、講師名(所属)、参加人数と概要文、写真4枚(大1枚、小3枚)となっている。詳細な情報は、会員専用ページ内の記録動画や開催概要へリンクを貼り、会員のみが閲覧できるような構成とし、会員と会員外で提供する情報の格差を明確につけ公開している。

#### (2) 「地域からの便り」の連載再開

kkj サイトの人気コンテンツである「地域からの便り」の課題や価値について、広報部会で審議を行い、新たな執筆者による連載を開始することができた。

##### ①目的

現在連載を休止している「地域からの便り」の連載方法を含むコンテンツの在り方を見直し、kkj サイトの活性化につながるような運営方法を検討した。

##### ②地域からの便りの連載に関する課題

- ・ 同地域での連載が難しい
- ・ 執筆者を見つけるのが難しい。
- ・ 限定地域(限定執筆者)のみの連載となった。

##### ③新たな執筆者による連載開始

- ・ 広報部会委員及び運営委員長からの紹介により、新たに3名の執筆者を見つけることができた。
- ・ 令和7年度内に2名からの寄稿を公開した。

表 3-4 令和7年度・地域からの便り執筆者一覧

公開日	氏名/所属(経歴)	地域
2026年3月2日	温井 達也 氏/(株)プレイスメイキング研究所 代表取締役(筑波大学人間総合科学研究科 建築デザイン(博士)デザイン学。「流山おおたかの森」のまちづくりに関わる。)	日本/茨城県(つくば市、流山市)
2026年3月24日	石塚 禎幸 氏/つなぐ暮らしの設計室 代表(ミサワホームの商品開発部長を退職後、埼玉県日高市にて団地再生に取り組んでいる。東京大学大学院まちづくり研究室・特任研究員)	日本/埼玉県(日高市)
2026年4月以降	近江 明 氏 (Office-ma 代表、サンフランシスコと東京の2拠点で活躍するランドスケープアーキテクチャー)	アメリカ/サンフランシスコ、日本/東京都



図 3-2 地域からの便り・掲載例

### (3) ESH パッシブデザインツールのコンテンツ構成の見直しと拡充

既存ユーザーがどのような形で利用しているか等を探り、新規利用者層拡大へ繋げるための活動を行った。まず、アクセス解析の実施により利用状況を把握。より使いやすいコンテンツへ改善した。また製品利用者へのアンケート調査を実施し、現状の利用状況を把握し、利用者層の拡大に繋げるための解析を行った。

#### ①既存ページ構成の改善

《アクセス解析結果》

- ・ランディングページの流入傾向：オーガニック検索での流入が多い。
- ・ページスクロール率の利用状況：ESH パッシブデザインツールの TOP ページは縦長のため、スクロール率が低い＝ページ全体を読まれていないことがアクセス解析から読み取れた。

《改善に関する実施事項》

- ・具体的な改善案を WG にて検討。テストページを経て、修正した内容を公開。

- ・ページ構成と関連情報（アプリ、参考図書等）の更新（2025年10月9日）
- ・活用事例ページを作成・公開（2025年10月23日）

#### ②利用者アンケートの実施

- ・利用者アンケート案を作成・実施した（2025年11月13日～28日）。

- ・送信件数：405通、回答数：12件

《利用者アンケート解析結果》

- ・ESH パッシブデザインツールを選んだ理由：

- 1位 無料で使える 84%
- 2位 計算エンジンに Energyplus を搭載している 59%

- ・利用者属性：

- 1位 設計事務所 50%
- 2位 大学等の教育機関 33%（大学 17%、大学院 8%、その他教育機関 8%）

その他 工務店・ビルダー8%、建設会社8%

- ・本製品の利用状況（どのような時に使っているか）：

- 1位 設計の初期段階、ラフスケッチの段階 59%
- 2位 基本設計が固まった段階 17%

- ・その他のシミュレーションツールの利用度：利用している 75%

- ・具体的な製品名：「ホームズ君 省エネ診断」44%

#### ③今後の展開方針

- ・利用者属性では、設計事務所の割合が多かったが、具体的な製品として挙げられていた製品の性能・特性を ESH パッシブデザインツールと比較した結果、設計事務所を対象とした製品としての競合は難しいと判断した。

- ・ESH パッシブデザインツールの特性（無料・計算エンジン/Energyplus）は、大学等の教育機関の学生が設計の初期段階、ラフスケッチの段階で利用するツールとして適しているとの考えから、利用者アンケートにご回答いただいた教育機関の関係者へ個別に協力を依頼し、学生向けの使い方講座を開く等、kkj としてのフォローを提案し、つながりを強める活動を展開していく。

## 4. 普及展開活動

### (1) 目的

脱炭素型社会や SDGs に賛同する組織として、社会的要請やニーズに対応すべく体制や活動内容等の更なる充実を図るとともに、団体名称変更に伴い、kkj が考える環境共生まちづくりについて、カテゴリー及び対象とする範囲等について検討し、今後の活動の方向性のベースとする。また、kkj 活動を通じてとりまとめた成果の公開と、これらを活用した説明会や新たな活動（暮らし方教室）を実施し、工務店・設計事務所及びエンドユーザーに向けた情報発信を行う。

### (2) 実施内容

#### ①環境共生まちづくりに関する検討

- ・建設会社、デベロッパー、住宅メーカー等による「まちづくり WG」を立ち上げ、環境共生まちづくりに関する検討を実施（5月15日、7月29日、9月25日、12月5日、3月17日）。
- ・kkjWeb サイト「環境共生住宅とは」のコンテンツのうち、『協会の紹介』に関する「目的」「沿革」を追加した他、団体名称変更に伴い『環境共生住宅とは』から『環境共生住宅・まちづくり』に修正した方が相応しいコンテンツタイトルの見直し等を実施した。

#### ②脱炭素型社会、SDGs に向けた環境と共生する住まい・まち・暮らしに関する kkj 活動を広く訴求するための新たなツール作成や情報発信

- ・パンフレットの確定版に向けた改訂と公開（6月4日の総会時に公開・配布）。
- ・川崎市立川崎小学校での「環境と共生する暮らし方教室」の実施（7月12日）（表4-1、図4-1～4-3）。
- ・「脱炭素社会推進会議」における kkj 活動内容の報告。

#### ③kkj 活動の更なる活性化を目的とした会員サービス向上につながる活動の継続的实施

- ・まちづくりに関する事例紹介及び意見交換会を企画し2回実施した。

##### ○第1回（7月24日）

事例：富久クロス

説明：戸田建設株式会社 鈴木宏昌様

参加者数：現地33名、Web4名、合計37名

##### ○第2回（3月6日）

事例：駿河台緑地／三井住友海上駿河台ビル

説明：三井住友海上火災保険株式会社 川村和美様

参加者数：現地20名、Web1名、合計21名

※オプション見学：御茶ノ水ソラシティ

#### ④kkj の活動成果を活用した普及展開方策、会員拡大方策の検討と実施

- ・各部会活動、普及展開活動等の kkj 活動内容を会員以外の方々にも広く訴求するとともに、情報会員や地域会員から正会員への移行を促すしかけとして、毎年の活動報告書及び見学会、交流セミナー等の各活動の簡単な実施概要を「協会の紹介」のコンテンツの一つに追加することとした。

（具体的な内容は「3-3 会員拡大や協会の認知度向上に向けた広報活動」「(1) 協会活動の対外的な発信ページの作成」を参照）

- ・kkj 活動成果（国庫補助事業の成果物「省エネ性能に優れた断熱性の高い住宅を住みこなす住まい方ガイド」「省エネ性能に優れた断熱性の高い住宅の設計ガイド」）を活用した以下のセミナーを実施した。
  - 杉並区都市整備部建築課による「建築物の再エネ×省エネ説明会」での講演（5月22日）。
  - 杉並区環境課による環境講演会「地球沸騰化時代の杉並の住まい 緩和と適応の取組みを考える」での講演（9月27日）。

#### ⑤様々な機会を通じた環境共生やパッシブデザインに関する考え方や設計手法等の普及と浸透を図るための方策の企画と実施（図4-4～4-6）

- ・美容業界紙「ザ・ビューレック5月号」からの取材対応。（4月18日取材、5月1日発行）
- ・ウェブリカ「地域色彩ラジオ」からの依頼によるラジオ出演と収録。

（6月9日、6月26日打合せ、7月22日収録）

収録内容はYouTube で公開

<https://www.youtube.com/watch?v=6uVMxdscv1U>

- ・日本水道新聞社が発行している、上下水道事業に関わらず様々な分野の話題を採り上げるジャーナル誌「AQUA BOOK」への寄稿（令和8年1月版）。
- ・ESH パッシブデザインツールの普及展開として、住宅設計における活用に関する論文を作成し、日本建築学会大会で発表した（9月11日）。

表 4-1 環境と共生する暮らし方教室・実施概要

テーマ	涼しさのヒミツを探そう！
内容	小学校の教室や校庭で「暑いところ」と「涼しいところ」を探して、暑い夏を涼しく過ごすためのヒントを学ぶ。
開催日時	2025年7月12日（土）9時半～11時
主催	川崎小学校地域の寺子屋委員会 (神奈川県川崎市教育委員会)
会場	川崎市立川崎小学校
参加者数	子ども17名、大人2名 (寺子屋スタッフ1名、学童保育引率1名)



図 4-1 栗原様による涼しい家の説明



図 4-2 放射温度計を使った実測（すだれ・色紙）

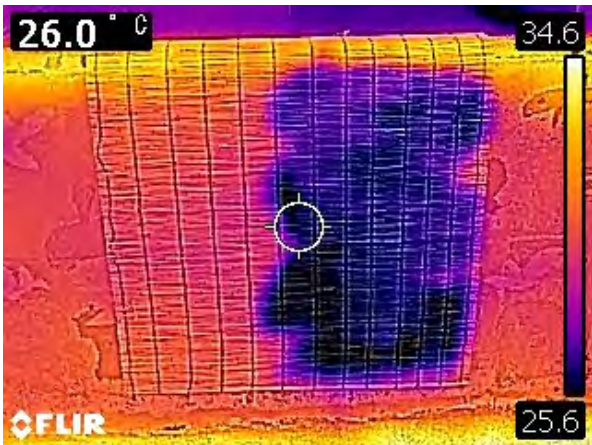


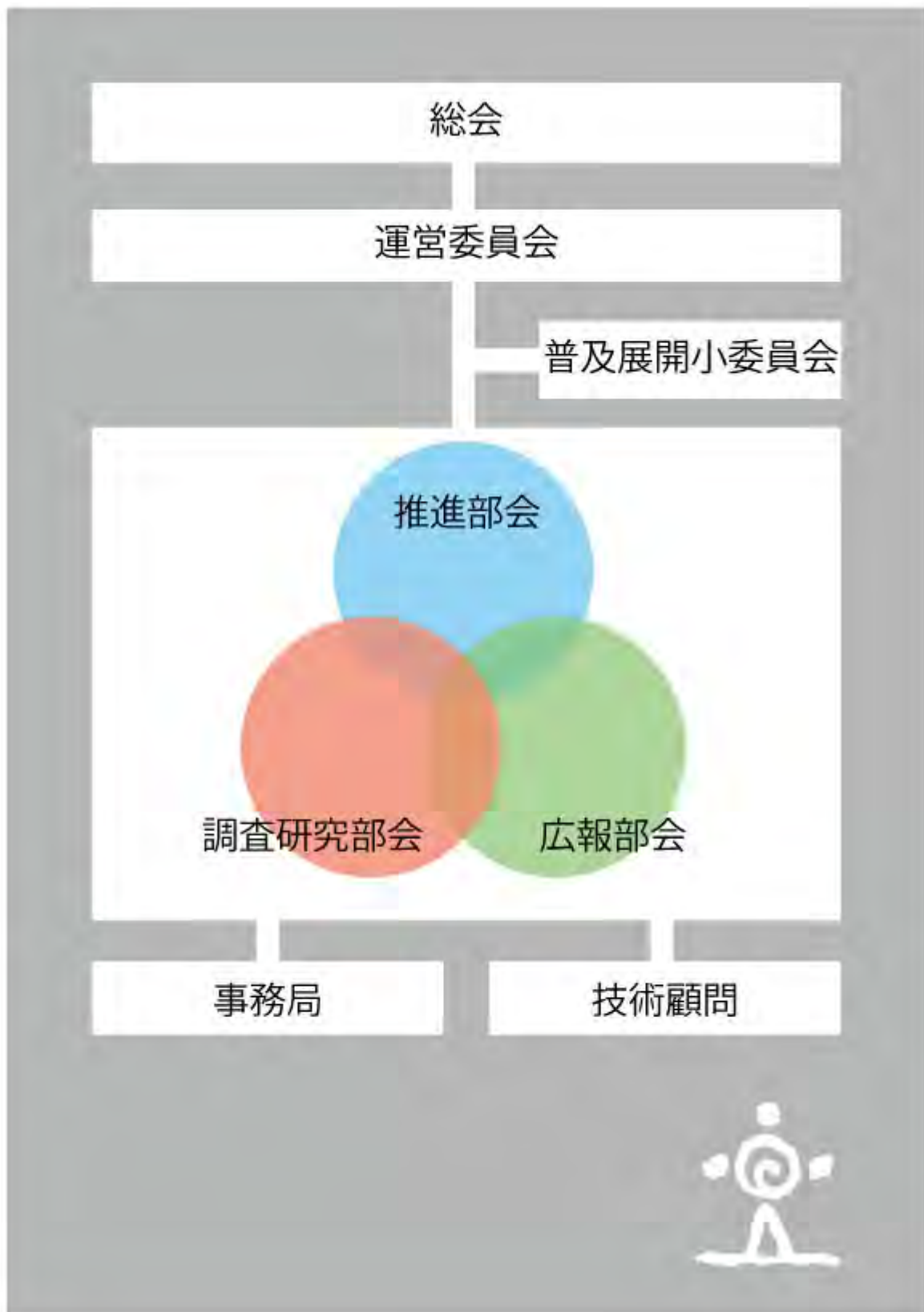
図 4-3 霧吹きで水を噴霧した部分の温度が下がったすだれ

図 4-4 美容業界紙「ザ・ビューレック 5月号」(抜粋)

図 4-5 ウェブマガ「地域色彩ラジオ」YouTube サムネイル

図 4-6 日本水道新聞社発行「AQUA BOOK 令和 8年 1月号」(抜粋)

令和7年度 環境共生まちづくり協会  
活動体制図







<https://www.kkj.or.jp>

一般社団法人 環境共生まちづくり協会

〒162-0824 東京都新宿区揚場町 2-21 東ビル 6F

TEL 03-6265-3242